

平成 25 年度 基本構想実現のための区民懇談会 「施設再編・使用料等の見直し(素案)」に関する質問・意見一覧

No	1		
資料名称	概要版	資料ページ	P. 1、3
質問テーマ	時代の変化に応じた区民ニーズへの対応		
質問・意見等		回答	
<p>【質問】</p> <p>概要版の「2.時代の変化に応じた区民ニーズへの対応」にあるような、少子高齢化の進展による課題は、従来の行政の量的発想では解決されないと考えます。</p> <p>例えば、保育所の需要も数だけでは解決されません。女性の新たな生活スタイルにも対応した運営の質的サービスの充実が必要とされます。高齢者の場合も同様で、介護施設だけでなく新たな高齢者は1人暮らしの高齢者も増大し地域生活の中での新たな地域サービスが必要とされると思われまます。</p> <p>これらのニーズを把握し新たな地域サービスとして具現化するには、第1次実施プランの段階で区民とともに計画づくりを進めていくことが大切です。第一次実施プランにおける区民参加の具体的仕方と進め方をお教えてください。</p>		<p>【回答】</p> <p>少子高齢化の一層の進展に伴い、区の人口構造はこれまでと比べ生産年齢人口が減少する一方、高齢者の割合は確実に増えてくる見込みです。女性の本格的な社会参加やライフスタイルの多様化などにより、保育需要は当面増加傾向が見込まれますが、総人口及び年少人口は減少していくことが予想されます。こうした中で、区民ニーズに応じたサービスを的確に提供していくためには、ご指摘のとおりハード面だけではなくソフト面も含めた質的サービスの充実が必要であり、多様な手法による工夫が求められると考えています。</p> <p>今回の再編計画については素案段階から公表し、各施設の利用者及び関係団体等からのご意見を踏まえ、修正を行いました。さらに、修正した素案についても地域説明会や区民意見交換会等を行い、出された意見をもとに再修正を行う予定です。その上で、区民意見等の提出手続き（パブリックコメント）を経て、計画の策定と実施に取り組んでいく考えです。</p> <p>第一次実施プランでは、これまで単一世代の利用者を想定した児童館、ゆうゆう館及び区民集会所などを、多世代が多目的に利用できる地域コミュニティ施設へ再編していくために、いくつかの施設でモデル的な取組を進めることとしています。また、小学生の放課後等の居場所事業についても、3つの小学校内でモデルとなる取組を実施する予定です。これらのモデル的な取組の中で、サービスの質も含め、地域の利用者や施設関係者等の意見を伺いながら、新しい施設、サービ</p>	

【質問】

施設の再統合を契機として、新たな地域の産業と人材を作り出す複合施設として開設する事例は他地区にも数多くみられます。

今回、産業商工会館の廃止、就労支援センターの移転、環境情報館の移転、科学館の廃止等が挙げられていますが、それらは今後どのような整備展開が計画されていますか。

科学館・環境情報館・商工会館・就労支援センターこれらの統合と再編とともに、「生活デザイン美術館」を併設することにより、次のような次世代地域産業施設が検討できないでしょうか。杉並区内には、フリーのデザイナー・クリエイターが数多く住んでいることで知られています。それは、生活雑貨・アンティーク・デザイングッズ・新食品レストラン（パン・ケーキ等）等の生活デザイン商品で若者に注目されている西荻窪地区の背景となっています。それらの関連デザイナー人材とデザイン関連企業と交流し情報発信していく施設です。区民にとっては、生活に身近な商品を最新の情報と商品を見たり買ったりすることができる場となります。将来的には、グリーンビジネス的地域産業複合施設としての展開が考えられます。

スのあり方を検討していきます。

【回答】

施設再編整備計画（第一期）素案では、基本方針の中に複合化・多機能化等による効率化の推進を掲げています。第一次実施プランの具体的な取組として、各施設の目的や配置等から区では次のように考えています。

なお、地域の産業振興に係る施設のご提案がありましたが、区では本年4月改定した産業振興計画に基づき、「人・モノ・情報の循環が促進される仕組みづくり」を掲げ取り組んでいます。

その一つとして、今年11月に第1回産業フェアを勤労福祉会館で開催しました。産業フェアでは、産業を通じて地域のつながりを深めようと、区内事業者の優れた技術や他にはない製品、特徴ある事業者の紹介など、区内産業の魅力を区内外に発信しました。今後も、区内産業の活性化と発展により、製品やサービスの質が向上し魅力が高まることで、消費者である区民のより良い生活につながるよう、引き続き取り組んでいきます。

産業商工会館

近隣の杉並第一小学校の老朽改築時に、杉並会館及び阿佐谷地域区民センターの機能と合わせて複合化を図ります。当該地は、阿佐谷駅に隣接する立地条件ですので、上記の産業フェアの会場としての活用や、集会やコミュニティ活動とレセプションもできる複合施設とすることで、区民の生活を豊かにする意味で、より一層区民の利便性の高い施設になると考えます。

今後、幅広く区民等の意見もお聞きしながら、まちづくりの視点からも検討し、具体化を図ります。

就労支援センター

生活困窮者対策の見直しに伴う包括的な総合相談体制の構築を視野に、あんさんぶる荻窪に移転し、福祉事務所との連携を強化しま

す。その後、あんさんぶる荻窪と荻窪税務署等用地との交換の協議の進捗により、福祉事務所を含む関連する機能を荻窪税務署等用地へ移転・複合化し、生活相談や若者の就労支援などのサービスの総合的な提供と機能強化を図っていきます。地域福祉向上に資する様々な活用が可能になることから、地域のまちづくりへの寄与にもつながるような取組にしていきたいと考えています。

科学館

学校教育部門を整備教育センターへ移転し、学校での理科教室等の充実を図ります。生涯教育部門の機能は、他施設へ移転し実施していく予定です。

環境情報館

移転を機に、環境施策充実の観点から今後の果たすべき役割を検討し、他施設での展開を図っていきます。